

3月24日は「世界結核デー」※



多摩府中保健所 結核対策
イメージキャラクター「肺えもん」

結核を早期に発見・治療するために 受けよう健診！ 早めの受診

- ◆ 日本では毎年約1万8千人、東京都でも約2,300人の方が新たに結核と診断されています。結核は過去の病気ではありません。
- ◆ 高齢の患者さんの割合が高い一方、東京都では他県に比べ20～30歳代の患者さんの割合が高く、結核は、若い世代にとっても注意が必要な感染症になっています。

結核の早期発見には胸部エックス線検査が大切です！

- 胸部エックス線検査では肺の状態を確認することができるため、**自分でも気がつかない（症状が無い）段階**の結核を発見することができます。
- 胸部エックス線検査は、職場健診や市民健診などで受けることができます。機会をとらえて、ご自身の健康管理のために、年1回は健康診断を受けましょう。



健康診断で精密検査を指示された場合は、すみやかに医療機関を受診しましょう。



長引くせき、治らない風邪っぽさ…もしかして、結核かもしれません

せき、たん、発熱（微熱）、体がだるい、体重が減る、食欲がない等がよくある結核の症状です。

このような症状が2週間以上続く時は、早めに医療機関を受診しましょう。



特に高齢の方は、せきやたんなど、目立つ症状がない場合もあるので要注意です！



結核は治る病気です！…だから早期発見が大切…

- 6か月以上の必要な期間、**継続的に複数の薬を組み合わせ服用**することで治療できます。人にうつす可能性がある場合やご本人の病状によっては入院治療が必要ですが、人にうつす可能性が無く体調に問題がなければ、日常生活を続けながら通院での治療になります。
- 結核は発見が遅れると、病状が進行し治療が大変になったり、人にうつす可能性が出てきます。そのため発病後の早い段階で発見し治療することが大切です。



※ 細菌学者ロベルト・コッホが1882年に結核菌の発見を発表した日にちなみ、1997年の世界保健総会で制定されたもので、世界各地で結核の啓発活動が行われます。

【この記事に関するお問合せ】 保健対策課 感染症対策担当